

経営比較分析表（平成29年度決算）

埼玉県 滑川町

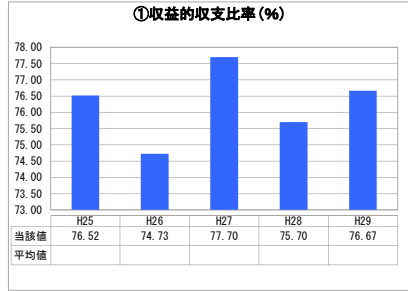
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	52.81	91.81	2,484

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
18,671	29.68	629.08
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
9,912	2.70	3,671.11

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



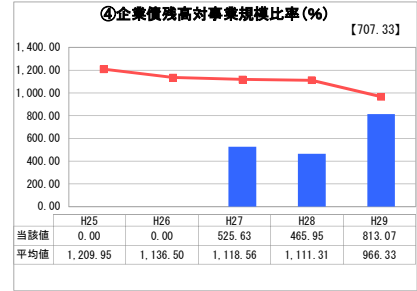
「単年度の収支」



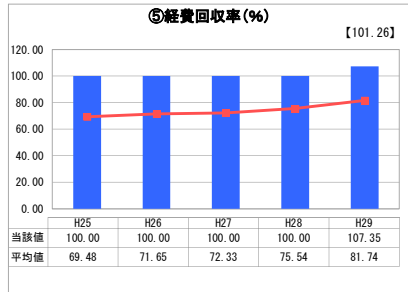
「累積欠損」



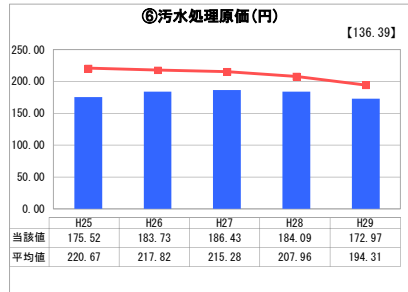
「支払能力」



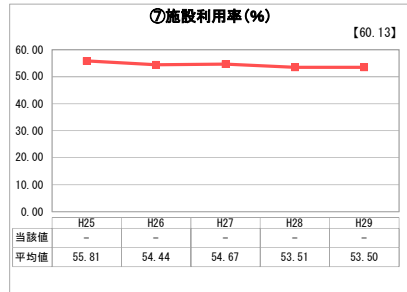
「債務残高」



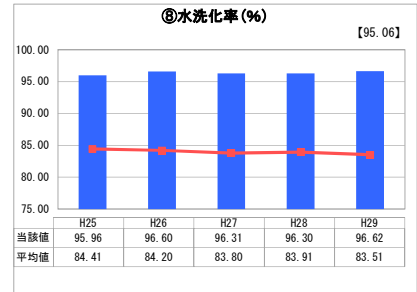
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

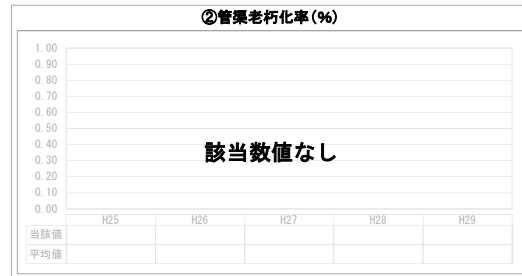


「使用料対象の捕捉」

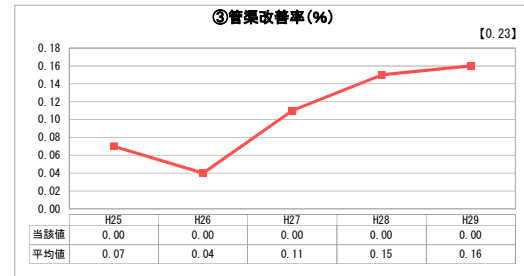
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率については、100%未満であることから、経営改善に向けた取り組みが必要である。企業債残高対事業規模比率については、今後、企業債の償還が進み公債比率の低下が見込まれているが、投資規模の検討等により更に経営改善・安定に向けた努力が必要である。

経費回収率は、類似団体を上回っており、使用料で回収すべき経費を賅っているが、これは、一般会計繰入金により保たれている状況である。

汚水処理原価については、類似団体平均値を下回っており、効率的な汚水処理が実施されているが検討の必要がある。

水洗化率については、類似団体を大きく上回っているが、公共水域の水質保全や、使用料収入の増加の観点から、100%を目指して普及啓蒙活動の必要がある。

2. 老朽化の状況について

管渠の老朽化はあまり見られていないが、定期的に維持管理業務を実施し、長寿命化を図ることが必要である。

全体総括

下水道整備の拡大を目的に継続的に投資を図ってきたが、今後は将来の財政収支を踏まえ、健全な経営が確保できる投資額の検討を進める必要がある。

また、今後は、施設の老朽化に伴う修繕等の増加により維持管理費の増加が見込まれるが、経費を抑制するため、創意工夫が必要となる。

流域下水道処理場の維持管理負担金の増加に伴い、適正な使用料の見直しを視野に入れた検討が必要となる。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。